

政務調査成果報告書

令和7年9月1日

犬山市議会議長
大澤秀教様

議員名 柴山一生

下記のとおり、調査の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年8月27日（水）～ 令和7年8月28日（木） （ 1 泊 2 日）
(2) 視 察 地	札幌文化芸術劇場
(3) 視察の種類	第20回全国市議会議長会研究フォーラム参加
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	1日目 今回のフォーラムのテーマは、「議員の成り手不足」にどう対処するかである。 最初に元衆議院議長伊吹文明氏の講話があり、議員とは何かの自説を述べられた。中選挙区制の時代は、2割取れば当選できたので、少数意見も尊重されたが、小選挙区制になって、5割取らないと当選できなくなり、独自の思いを出しづらい時代になった。現行憲法は主権が日本にない期間につられている。議員の生活の不安定さは、もの悲しいもので、知っているだけでも元（国会）議員が少なくとも、10人は生活保護で暮らしている。もうちょっと、政治家の老後の生活を保障してやることも必要だろう。このあたりが、政治家の成り手が少なくなっている一因だろう。 パネルディスカッションに大学教授、新聞記者、地方議員二人参加。牧原出教授の主張される、国都道府県市町村の枠が一律すぎるというのは首肯。各自治体はそれぞれに見合った合議システムを作る必要があり、通常の選挙のみに縛られるのは、本末転倒。



(5) 犬山市に 対する提言	2日目
	パネルディスカッション
	笠置町町議選は、立候補者が少なく、3つの家族で占められた。
	小学生にアンケートが取られ、60種の職業の中で政治家は、58位、
	親が付けさせたくない職業の1位はユーチューバー、2位は、芸人
	3位は自衛隊、4位は政治家だそうだ。
	議員定数を減らし報酬を上げたり、議員の厚生年金への加入を認め
	長期的な生活の安定を見込める職業にしていかなければ、このまま
	議員不足は進行するだろう。
	犬山市議会議員選挙は、立候補者不足という事はなかった。平成11
	年統一選挙では、定数22に対して36人の候補者が出たのをピー
	クに常に5名ほどの定員オーバー選挙となっている。ただ、最近
	平成23年10名、平成27年5名、平成31年2名、令和5年4名と減少傾向
	にはある。その理由は、私は定数減ではないかと思っている。平成
	11年26だったのが、令和5年で18になっている。これが、立候補を

思いとどまらせる理由の一員になっているのではないかと思う。

個人的には、議員はもう少し多いほうが良いと思っている。それを

市民の皆さんに理解してもらうには、議員の日ごろの活動がどうあ

るべきかを市民の皆さんに周知し、常に市民の皆さんの目に見える

形で提示していくべきだろうと思われる。市民生活向上に本当に

役に立っているという市民理解があれば、議員定数は増やせるだろう。

また、一方では全国議長会が推し進めるように、議員の老後の生活

を保障するような施策を取っておくことも痛しかゆしだが必要だろ

う。伊吹さんがおっしゃったように資産家だけが政治家になれば、

普通あるいは貧乏な家庭からは政治家が出せない時代が再びやって

来ることになるだろうから。